

新聞英語における s-genitive の使用効果

野 波 侑 里

The Effect of s-genitive in the Newspapers

NONAMI Yuri

0. 序

近代英語から現代英語の歴史的変化の一つに、s-genitiveの普及がある。たとえば、Altenberg (1982:11) によると、“*Her father’s arrival changed everything.*”と“*The arrival of her father changed everything.*”の“*Her father’s arrival*”と“*The arrival of her father*”は、近代英語の時代には同一の意味を表し、両方の用法が容認されていた。しかし、現代英語においては、Quark *et al.* (1985:1277) の、“*Ann’s car*”と“**the car of Ann*”や、“*the lady’s car*”と“**?the car of the lady*”の比較例からもわかるように、有生名詞については、*of*-constructionが全く容認されないか、容認できない傾向にあるものが増えている。この例が示しているように、s-genitiveの使用範囲は時代と共に*of*-constructionの領域にまで徐々に拡大してきているのである。また、Biber *et al.* (1999:302) 等では、s-genitiveが新聞英語において特に多用されていることが指摘されている。

本稿では、新聞英語で使用されるs-genitiveの用法を考察し、さらにs-genitiveが記事のテキスト内でどのように使用されているかを検証することにより、なぜ新聞英語にs-genitiveが頻繁に使用されているのか考察することを目的とする。

s-genitiveの表記については、s-genitive (Biber *et al.* 1999) や’s-genitive (Barber 1964) など様々な表記があるが、本稿ではs-genitiveと統一することにする。

1. 先行研究

歴史的に近代英語以降にs-genitiveが増加の傾向にあることについては、Barber (1964:132-133) において下記のように紹介されている。

... there are one or two changes going on in the language of inflexions. One clear one is the spreading of the 's-genitive at the expense of the *of*-genitive at the expense of the *of* ... You will easily find many more examples in books and in newspapers. (Barber 1964:132-133)

つまり、*of*-constructionがs-genitiveに置き換えられ、またこれは特に新聞英語において、より多く使用されているとしている。

最近のコーパスデータにおける数量的な分析においても、Biber *et al.* (1999:302) は、"The frequency of the s-genitive is particularly high in news, presumably because it represents a good way of compressing information."として、特に新聞英語という言語使用域においてs-genitiveが最も多く使用されているという結果を出している。しかし、その理由について、文の短縮化の為ではないかと推論してはいるが、断定を避けている。他の先行研究においてもJournalismの英語にs-genitiveが多いという言及はあるが、理由については特に記述されていない。

また、Waterstone (1993:187) は、イギリスの大衆紙*The Mirror*のスタイルブックの中で、s-genitiveは、新聞英語において、"Although it has no purpose and doesn't save space (*Birmingham's New Street* is in fact one *en longer than New Street, Birmin gham*) it is harmless enough—as is a nervous tic."としている。「特に目的はなく、スペースの節約でもない」として、地名に関する用例、"*Birmingham's New Street*"と"*New Street, Birmingham*"の長さの違いを例に挙げて説明している。

このように、先行研究においては、s-genitiveが新聞英語に多いという言及は見られるが、その理由については曖昧である。そこで、本稿では、新聞英語におけるs-genitiveの多用が、ただ単に文の短縮化の為であるのか考察を試みることにする。

2. 分析

今回使用したテキストは、イギリスの新聞で高級紙からは、*The Times* (以下*Times*)、*The Guardian* (*Guardian*)、*The Daily Telegraph* (*Telegraph*) を、また大衆紙からは、*The Daily Mail* (*Mail*)、*The Express* (*Express*)、*The Mirror* (*Mirror*)、*The Sun* (*Sun*) の7紙の1999年8月26日から9月5日の記事を引用した。

今回は、イギリスの新聞に焦点を当てた為、s-genitiveが、特にアメリカ英語に多いと言われている点について考察を行っていない。

また、引用文には、文中におけるCapital letterの使用など特殊な記述があるが、これは、新聞記事内で使用された文字の通りに記述したためである。

2.1 名詞の範疇とs-genitiveの関係

s-genitiveの分類方法は、文献により、または注目する観点により、様々な方法があるが、今回は、新聞英語で使用されているs-genitiveを、Quirk *et al.* (1985:324) で示された名詞の範疇に従って分類を試みた。

(a) PERSONAL NAMES

- (4) *Dr Mowlam's* failure (30 Aug. 1999 *Times*)
- (5) *Ms Mowlam's* decision (28 Sep. 1999 *Guardian*)
- (6) *striker Owen's* first appearance (28 Aug. 1999 *Mirror*)
- (7) *Mr Blair's* next Cabinet (28 Aug. *Sun*)

(b) PERSONAL NOUNS

- (8) *his daughter's* decision (30 Aug. 1999 *Times*)
- (9) *The priest's* view (30 Aug. 1999 *Times*)
- (10) *a killer's* secret (28 Sep. 1999 *The Express*)
- (11) *The teenagers'* ordeal (30 Aug. 1999 *Times*)

(c) ANIMAL NOUNS

- (12) *cow's* milk (28 Aug. 1999 *Mirror*)

(d) COLLECTIVE NOUNS

- (13) *Labour's* success (28 Sep. 1999 *Times*)
- (14) *the Government's* flagship (28 Sep. 1999 *Times*)
- (15) *United's* invincibility tag (28 Aug. 1999 *Mirror*)

(e) GEOGRAPHICAL NAMES

- (16) *Dublin's* main post office (28 Sep. 1999 *Guardian*)
- (17) *Russia's* acting prosecutor-general (28 Aug. 1999 *Guardian*)
- (18) *Britain's* NO1 newspaper (28 Aug. 1999 *Sun*)

(f) 'LOCATIVE NOUNS'

- (19) *the country's* livestock crisis (28 Aug. 1999 *Express*)
- (20) *the province's* police (26 Aug. 1999 *Mail*)

(g) TEMPORAL NOUNS

- (21) *last year's* winner Westminster (28 Aug. 1999 *Express*)
- (22) *the previous night's* big game (28 Aug. 1999 *Express*)
- (23) *yesterday's* agreement (30 Aug. 1999 *Times*)
- (24) *Thursday's* statement (28 Aug. 1999 *Telegraph*)
- (25) *an easy 90 minutes' drive* (28 Aug. 1999 *Sun*)

(h) OTHER NOUNS 'OF SPECIAL RELEVANCE TO HUMAN ACTIVITY'

(26) the *poll's* result

(a) から (h) の分類において、新聞英語で圧倒的に多い用法が、(a) PERSONAL NAMES の範疇である。特に、(7) から (10) のように、s-genitive が名詞句内の主格の役割を果たす例が最も多く、これを見ると、確かに文の短縮化として使用される傾向にあることは否定できない。(b) PERSONAL NOUNS についても、この名詞句内の主格として機能する例が多く、一方、(d) COLLECTIVE NOUNS、(e) GEOGRAPHICAL NAMES については、特に近年、*of*-construction の例はほとんど見られず、s-genitive が採用される例が多い。

次に (g) TEMPORAL NOUNS の用法も新聞英語において多用されている。(h) OTHER NOUNS 'OF SPECIAL RELEVANCE TO HUMAN ACTIVITY' については、(29) の the *poll's* result のような例が該当するが、今回の使用した新聞からは発見できなかった。

この研究にあたり、新聞英語の範疇に s-genitive の多い理由として、s-genitive が広範囲の無生名詞にまで範囲を拡大して使用され、新聞英語特有の例が考察されるのではと考えていたが、実際には、(a) から (h) の例のように、s-genitive の典型的な使用範疇から逸脱することはなく、新聞英語特有の例は発見されなかった。敢えて言うならば、*of*-construction でも容認される、(d)、(e) の範疇の大半の例で s-genitive が使用されていたことであろう。

また、別の観点から考察してみると、一般に s-genitive の使用される範疇が、新聞記事において必要不可欠である、“when,” “where,” “who” に該当する範疇で使用されていることがわかる。“where” にあたるものが (e) の例、“when” にあたる (g) の例、そして “who” にあたるものが (a) のような、名詞句内で主格の機能を果たす s-genitive であるというように、新聞英語の特徴と s-genitive の機能がうまく合致しており、それが、s-genitive の多用につながっている。しかも、新聞の各記事のワード数が 100 語から 800 語程度の中に、“who,” “when,” “where” を明確に記載するという新聞の使命により、s-genitive が非常に多くなることは当然のことといえる。また、新聞英語には s-genitive を含む名詞句内で、主格の機能としての s-genitive が多く使用されているが、Quirk *et al.* (1985:322) は、“There is a tendency for genitives to be taken as subjective, and for *of*-constructions to be taken as objectives.” として、主格には s-genitive を、そして目的格には *of*-construction を取る傾向にあると指摘している点からも s-genitive が新聞英語の特徴と合致していることがわかる。

以上のように、新聞英語における s-genitive には、特別な使用方法があるわけではなく、s-genitive の使用される範疇と新聞英語の特徴とが密接な関係あるといえる。

2.2 文中におけるs-genitiveの使用法

次に、文中におけるs-genitiveの使用方法について考察を試みる。特に興味を引いたのは、ヘッドラインとその次に続く記事の要約部分であるLeadsの文頭における使用方法である。下記の(27)から(29)は、Leadsから引用した。

- (27) *PRINCE William's* school Eton ranks just 13th in a combined state and independent school exams league table. (28 Aug. 1999 *Mail*)
- (28) *A PILOT'S* complaint about the taste of the in-flight coffee helped smash a major drugs and weapons smuggling operation centred on a top airline, it emerged last night. (27 Aug. 1999 *Express*)
- (29) *The Prime Minister's* press secretary, Alstair Campbell, apparently wrote a pretend Queen's Speech for his own amusement. (30 Sep. 1999 *Sun*)

(27)から(29)の例は、Leadsの冒頭部分であるが、(27)では、この記事のポイントとなるEton Schoolのランキングについて、「PRINCE Williamの通っている」という読者に関心の深い要素を冒頭に出して読者の関心を引く為にs-genitiveを効果的に使用しているといえる。つまり、読者の関心事に「目を引く」すなわち“eye-catching”の効果でs-genitiveが使用されている。(28)においても同様に、“A PILOT'S”が読者の目を引き、また(29)においても、固有名詞よりも役職を前に出して目を引いている。特に記述法でも、Capital letterを使用していることから、読者に印象づけたいという書き手の意図がわかる。

下記の(30)から(33)の例は、Headlineの冒頭部分である。

- (30) *JACK'S* ATTACK ON THE NASSER FLAK (28 Aug. 1999 *Mirror*)
- (31) *Mother's* tears for Laura, 9 (27 Aug. 1999 *Mirror*)
- (32) *Trevor's* awe over shark (28 Aug. 1999 *Sun*)
- (33) *Fugitive's* revenge (30 Aug. 1999 *Mail*)

このようなHeadlineの冒頭にs-genitiveを使用する例は多数見られる。このs-genitive使用法は、文の短縮化という理由だけでなく、「目を引く」効果として利用されているといえる。

Reah (1998:17) は、ヘッドラインの特徴について、“Headline writers use a range of language devices to make their headlines memorable and striking.”とし、ヘッドラインを作る作者の側では、ヘッドラインを「読者の記憶に残るもの、衝撃的な印象を与えるも

の」という観点で作成するとしている。この点からも、s-genitiveの機能が有効に利用されていることがわかる。

特にこのような例は高級紙よりも大衆紙、ジャンルでは、政治経済などの一般記事よりもスポーツ記事に多く検証された。

2.3 テキスト内におけるs-genitiveの使用法

次に、s-genitiveのテキスト内における使用法について考察する。下記の(34)と(35)の例はその例である。

(34) *Irwin* has a painful achilles tendon and could be sidelined for two weeks at least. *Irwin's* loss means Phil Neville will have to play left-back. (3 Sep. *Mirror*)

(35) *ACTOR Michael* Williams have told friends Tragically, *Michael's* illness struck at a time And although *Michael's* own career has never shown It is believed *Michael's* cancer was discovered in June (26 Aug. 1999 *Mirror*)

(34)では、Irwinという人物が最初の文の文頭で登場する。次に、2番目の文において、*Irwin's* lossというようにs-genitiveが使用されている。通常のテキストであれば、2番目の文ではhisという代名詞で受ける方が自然であり、文の短縮化としても理解できるところである。しかし、敢えてs-genitiveを利用することにより、Irwinであることを明確に示している。(35)の例文のMichaelの使用法についても同様のことがいえる。新聞を読む場合、短時間で読むためには代名詞を使用せずに固有名詞を使用する方が、読者に、より正確に情報が伝わる。情報をより正確に間違いなく伝えるために、代名詞ではなく固有名詞を使用しているのである。その為には、s-genitiveが必要不可欠であり、この点からも、s-genitiveが文の短縮化の為にだけに使用されているのではないことがわかる。

また、下記の(36)と(37)は、王室関係の記事の例である。

(36) Have the hopes and expectations that followed *Diana's* death dissipated? Are we, bit by bit, sliding back to the cool, ... the *Princess's* death? After all, the Royal Family were ... *Diana's* style. Some may say it is unrealistic to ... *Diana's* memory. (28 Aug. 1999 *Mail*)

(37) PRINCE Edward was forced into making a humiliating apology last night for running down Britain while he was abroad. *The Prince's* comments to

the New York Times were... . He said *Edward's* remarks... . (3 Sep. 1999 *Mail*)

上記の例でもわかるように、王室関係の人物については代名詞は使用されない。特にイギリスの新聞において、王室関係の記事は毎日見られるが、代名詞ではなく、*Diana's*や*Princess's*のように、固有名詞にs-genitiveを使用して、少し変化させながら使用されているのがわかる。

次に、下記の(38)は、変奏 (Variation) の例である。

(38) *ROBBIE FOWLER* became a father last week - now he has to prove he is not a baby. ... They all poured pressure on *Liverpool's master striker*.
(3 Sep. 1999 *Sun*)

この例では、*ROBBIE FOWLER*について、代名詞を使用せず、*Liverpool's master striker*と変奏しているが、その変奏表現においても、s-genitiveが効果的に使用されている。このような表現は、特にスポーツ記事に多用される傾向にある。

下記の(39)は、一つの記事全体におけるs-genitiveの使用法の例である。

(39) *PRINCESS Diana's* mother appealed for her daughter to be allowed to rest...

Yet *Mr Al Fayed's* lawyers not only contested the findings of the two-year investigation but continued to blame everybody else

Mr Al Fayed's spokesman Laurie Mayer said: 'He is pleased that

Diana's brother Earl Spenser said he too believed that

St James's Palace refused to comment.

Mr Al Fayed's French lawyers insist that if there had been no paparazzi present

The former bodyguard's solicitors will study the judge's report

Henry Paul's parents said they will appeal. At their home

Prince Charles's appearance with his son came at the inauguration

Prince Charles's appearance with his son came at the inauguration

(4 Sep. 1999 *Mail*)

これは、1つの記事の段落の冒頭をピックアップして引用した例であるが、記事全体を

通して、ほとんど全ての段落の文頭にs-genitiveを使用している。接続詞は、2段落目のYetのみで、一見すると冗長な感じを受けるが、読み進むにつれ、リズム感があり、5段落目の*St James's Palace*については、固有名詞ではあるが、s-genitiveの付く固有名詞を故意に文頭に置いて統一性を持たせたのではないか。そして、最後の文中の*Eton's*で締めくくるという技法を敢えて使用したようにも思われる。このような用法は、特に*Daily Mail*で数多く観察された。

このような、テキスト内での使用も、正確な数量分析は行っていないが、高級紙よりも大衆紙でより多く見られる。大衆紙の方が、各記事の総ワード数が少ないことから考えても、これらの使用は、単なる文の短縮化のためではないことがわかる。

3. Conclusion

以上のように、新聞英語におけるs-genitiveの使用方法について検証を試みたが、まず、新聞英語にs-genitiveが多い理由は、限られたワード数に記事を納めるために、表現の短縮を目的としたことは否定できない。しかし、同時に2.1で示したとおり、s-genitiveの典型的な使用法が、新聞記事で必要不可欠な情報とうまく合致しているためであること、また、2.2で示したとおり、文頭における読者の「目を引くeye-catching」効果、また2.3で示したとおり、テキスト内で代名詞を使用せずに情報を正確に伝える効果などが検証された。また、s-genitiveが、ジャンルではスポーツ記事やゴシップ記事、また大衆紙に多いことも検証された。

今後は、数量的な分析、s-genitiveの主格、目的格の用法の相違なども考慮に入れながら考察したい。さらに、他の言語使用域との比較も必要であろう。

また、*The Times*のスタイルブックである、Austin (1999:13) において、apostropheの記述方法を解説した部分では、"*The Times's style*"は、"*Times style*"のように"s"の省略は可能としている。このように、近年では、"s"の省略も容認されてきており、16世紀以降、歴史と共に増加の傾向にあったs-genitiveが、今後減少の傾向に移行することも考えられる。

Burchfield (1998:60-61) は、"apostrophe"について"apostrophe"として二一世紀におけるapostropheの使用について警告を出しているが、この点についても今後注目していきたいと思っている。

注) 本稿は、2000年10月28日に行われた、日本英文学会中国四国支部第53回大会にて口頭発表したものの一部に、加筆、修正を加えたものである。

Cited Texts:

1999年8月26日～9月5日の記事

高級紙: *The Times* (略記*Times*), *The Guardian* (略記*Guardian*),
The Daily Telegraph (略記*Telegraph*)

大衆紙: *The Daily Mail* (略記*Mail*), *The Express* (略記*Express*),
The Mirror (略記*Mirror*), *The Sun*, (略記*Sun*)

References:

Altenberg, Bengt. *The Genitive v. Of-Construction*, CWK Gleerup, Lund, 1982.

Austin Tim ed., *"The Times" Guide to English Style and Usage*. London: Times Books, 1999.

Barber, Charles. *Linguistic change in present-day English*. Alabama: University of Alabama, 1964.

Bagnall, Nicholas. *Newspaper Language*. Oxford: Forcal, 1993.

Biber, Douglas *et al.* *Longman Grammar of Spoken and Written English*. London: Longman, 1999.

Burchfield, R.W. *The New Fowler's Modern English Usage*. Revised 3rd ed. Oxford: Clarendon, 1998.

Jucker, Andreas. H. *Social Stylistics: Syntactic Variation in British Newspapers*. Berlin: Mouton de Gruyter, 1992.

Quirk, Randolph. *et al.* *A Comprehensive Grammar of The English Language*. London: Longman, 1985.

Reah, Danuta. *The Language of Newspapers*. London: Routledge, 1998.

Waterhouse, Keith. 1993. *WATERHOUSE ON NEWSPAPER STYLE*. London: Penguin Books.